



無所属・無党派

さいたま市議会議員

川村 準

じゅん

3月号

〒336-0017

南区南浦和1-27-11-107

携帯 090-1404-2151

junkawamura1923@gmail.com

議会レポート

議員半数以下の賛成で予算が成立

市民望まぬ大イベントに税垂れ流し

2月議会が、3月11日に閉会しました。地方議会は3か月に一度の開会ですが、この2月議会は年度末に開かれるということ、本予算が扱われ、翌年度のさいたま市の税金の使われ方が決まる特に重要な議会です。今回の予算は、私が反対した他、多くの議員が退席し59人の議員中、わずか28人の賛成で通過しました。今回はスポーツ政策の問題を述べます。

高齢者対策は「予防」に重点を

市は毎年「市民意識調査」を行っており、ここ数年この調査でトップの項目が、「高齢者福祉の充実」です。高齢者の数も割合も増える中で重要な施策ですが、単純に介護サービスなどに予算を振り分けただけでは、市の予算が膨れ上がるだけで、市の財政をひっ迫する結果に陥ってしまいます。そこで、元気な高齢者を増やし、生涯明るく楽しい生活を送ってもらうとともに、介護費、医療費

の膨張を抑えるために、行ってもらおうなどに、「予防」という観点

市民向け予算4分の1に

こうした背景を踏まえ、市も成人市民の週1回以上のスポーツ実施率を2015年度の49・8%から2020年度までに70%へ向上させることを謳っています。この目標設定自体はうなずけます。しかし、今回の予算では例えば、市民のスポーツ実施率に大きく関係するであろう学校体育施設の放課後等に開放する予算が昨年の約6900万円から約1700万円と大幅に減っており、市民の健康増進に関する予算は昨年比で大きく減らされています。市に、スポーツ実施率の向上に関しての考えを聞きました。川村準「市民のスポーツ実施率を向上するため、新年度予算でどのような事業を行うのか」野間スポーツ文化局長「新年度は各種スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブに対する支援、各

が重要です。退職後も、適切な運動や積極的に社会へ関わってもらおうことで、心身ともに健康な毎日を過ごしていただく政策に市は転換すべきです。

種スポーツ教室の実施のほか、大型スポーツイベントの開催等でスポーツ実施のきっかけに繋がる事業を考えている」市民の健康増進に関する予算は昨年比で大きく減らされており、代わりに大型スポーツイベントの開催に巨額の税金が使われています。裏面で述べますように、大型スポーツイベントの開催が個人のスポーツ実施に繋がる可能性は低く、政策の速やかなる転換が求められます。

ビッグイベントで新住民を誘致？

疑問の多い「選ばれる都市」への道のり

清水市長は、市民のスポーツ実施率の向上でなく、なぜ自転車レース「さいたまクリテリウム」や「さいたま国際マラソン」などビッグイベントに税金を使うのでしょうか。清水市長は、ビッグイベントが新住民の誘致である「選ばれる都市」に繋がる、と述べています。しかし、その可能性は極めて低いと言えます。

ソンは、プロだけでなく市民はじめアマチュア参加者が設けられており、市民の健康づくりにも寄与する部分があるかもしれませぬ。しかし、市民のスポーツ実施率の向上

に必要なのは、元々ほとんど運動をしない市民が、散歩や軽いジョギングなどを行うことで健康になることです。そもそも、散歩もあまりしなかった市民にとって、マラソンをするのは敷居が高いと言わざるを得ませぬ。また、スポーツではありませんが、今年9月から開催予定の芸術祭「さいたまトリエンナーレ」に約8億円の予算を上めています。清水市長としては、以上に述べた三大ビッグイベントを開催することで、さ

3大イベントに計14億円計上

清水市政は新年度は大型スポーツイベントに更なる税金をつぎ込もうと考えています。

まず、自転車レース「さいたまクリテリウム」に約3億円を今回も計上しています。しかし、同レースの過去3年間の来場者数は初回から順

に約20万人、約10万人、約9万5千人と確実に集客数を減らしています。

また、昨年横浜から引き継ぐ形となった「さいたま国際マラソン」ですが、今年とは昨年と比較して倍の約3億円が計上されています。確かに、国際マラ

「文教都市」や「サッカー」にもっと予算を

例えば、私は神奈川県出身の好きなロックバンドがいて、横浜アリーナにライブをよく観に行きます。しかし、横浜に住みたいと思っ

たことはありませぬ。このように、こうしたビッグイベントを年に一日（トリエ

ンナーレは3年に一度）行うからといって、新しくさいたま市に住みたい、と考える人々は増えないでしょう。

東京を中心とした関東圏は、魅力のあるコンテンツはほとんど都内で大規模に開催されることが多いです。東京周辺の

地区に昔からあった強みの「サッカー」の街づくりには約700万円しか充てていません。スポーツ政策は市民の健康向上に繋がる政策を基本に行い「選ばれる都市」の政策は従来からの魅力である「文教都市」や「サッカー」等を向上する施策に予算を絞るべきです。